

## 【ウパニシャド勉強会サマリー-4月分】

11回目～13回目（2021年4月07日, 14日, 21日）

### 4月07日 ナチケーターの偉大な識別

《1部1章24節》《1部1章25節》《1部1章26節》参照

ヤマは、最初に世俗の楽しみごとでナチケーターを誘惑し、次の誘惑は世俗の楽しみだけでなく、まだ知らない天国の楽しみで誘惑します。このようにしてヤマは、ナチケーターに天国の楽しみをイメージして見せました。そのかわりに、ヤマは、死後のことやアートマンについてはもう尋ねないようにと言いました。

もし、皆さんの前に、死神があらわれて、この世の楽しみや天国での楽しみまで叶えてあげよう、その代わりに死んだ後のことやアートマンのことは尋ねないように、と。このように言われたらどうしますか？ 普通の人は、好きなものが手に入る方を選ぶでしょう。信者はどうでしょうか？

トゥリヤーナンダジーは、あるお坊さんに「天国は好きですか？」と聞きました。お坊さんは「私は天国が好きではありません」と答えました。トゥリヤーナンダジーは「あなたは、まだ天国がどんなに素晴らしい所なのかイメージ出来ないの、天国が好きではないと言うのです。もし私が、ヤマがナチケーターに見せたように天国を見せたなら、あなたは別の答えを言うでしょう」と言いました。

なぜなら、私たちは天国のイメージができないので天国が好きではないのです。ナチケーターに見せたように、私たちも見たら答えは変わります。本当に真理だけを求めるというやる気を何人の人が持っていられるでしょう。とても少ないのではないのでしょうか。ヤマはナチケーターに多くの楽しみを叶えることと約束しましたが、ナチケーターは何と答えたのでしょうか。

ナチケーターは、無限のものと比べたら、それらの楽しみはすべて一時的なものであると言っています。私は、ただ一つ、アートマンのことが知りたいのです、と言いました。

識別の基準は、最初の状態が、最後にはどんな状態になっているのかということです。それでシュレーヤ（善、幸福）とプレーヤ（快楽）を識別できます。

問題は、私たちがいつも感情や欲望の最後の状態がどうなるのかという考えがないので墮落して、執着や苦しみや悲しみが出てくるのです。賢い人と普通の人はそこが違います。賢い人はすべてのものの最後の状態を考えて行動します。私たちは考えないで行動して、後で考え、後悔します。そして忍耐もありません。また、最後の状態も考えたくないのです。もし、考えたらすべての楽しみは楽しみでなくなることになります。楽しみと悟りは東と西のように反対のものです。合わせることはできません。感覚の楽しみ生き方で、悟ることはできません。識別が必要です。

また、世俗的な楽しみ結果、感覚の力、心の力が減少し、悟りのために霊的な実践ができなくなりま

す。そして、感覚的な楽しみがありますと、その力は減るだけではなく、心が落ち着かなくなります。もっともっと世俗的に楽しみますと、もっともっと落ち着かなくなります。力はコントロールしなくてははいけません。永遠か一時的かを識別するナチケーターの例は偉大です。

#### 4月14日. プリハドアーラニヤカ・ウパニシャド (P173) の中に見る素晴らしい識別。

ヤージュニャヴァルキヤというブランミシュタ・タマ（悟った人の中でも最上の人）に、マイトレーイーとカートヤーヤニーという、二人の奥さんがいました。昔インドでは一生を四つの時期（アーシュラマ）に分けていました。学生（ブラマチャリア）、家住者（ガールハスティヤ）、隠退（ヴァーナプラスタ）、放棄（サンニャサ）です。インドでは「50歳になったら森に入ってください」という諺があり、ヤージュニャヴァルキヤが50歳になり森に入る前に、二人の奥さんに、自分の財産を分ける話をしました。カートヤーヤニーは世俗的な奥さんでしたから喜びました。しかしマイトレーイーは、質問をしました。「旦那さん、もし私がお金を貰いますと、その金で私は不死を得ることは出来ますか？」と。

その時、ヤージュニャヴァルキヤは「マイトレーイー、世界のすべての金をもしあなたが貰っても、その金で不死を与えることは出来ません」と答えました。なぜならすべては楽しみのもや金は一時的です。その時のマイトレーイーの答えはとてとても有名です。

yena-aham na-amṛta syām kim-aham tena kuryām/ bṛhadāraṇyaka : 2-4-3 節

「あるもので私に不死を与えてくれないなら、そのもので私は何をしますか？」

殆ど 99.9%の人がカートヤーヤニーです。マイトレーイーみたいな人は、とても少ないです。本当はマイトレーイーのようにならないと、霊的にはなれません。これがウパニシャドの勉強の始まりです。

その後マイトレーイーは「師、教えてください。不死になる方法を私は勉強したいです」と言いました。ヤージュニャヴァルキヤはマイトレーイーに、「私は教えます。ですけれどもあなたは、教えたものをよく瞑想して下さい（ニディッディヤーサスヴェーティ）」と言いました。とても大切に、聞く（勉強）だけでは深く理解できません。

ヤージュニャヴァルキヤは、マイトレーイーが世俗的な奥さんではなく、霊的な奥さんだったので、大好きでした。どうして夫婦はお互いを、両親は子供を、人は、友を愛していますか？ 答えは何ですか。息子、奥さん、旦那さんよりもっと大事なものは何ですか？「私の」愛したものより「私」それがもっと大事ではないですか？「自己愛」が一番大事です。私の旦那さんも奥さんも二次的です。

例えば、もしあなたが自分の子どもと一緒に公園に行くと、子どもがいっぱい遊んでいます。自分の子どもと同じように他の子どもを愛しますか？ いいえ、自分の子供を愛します。その「自分」はどこから来ますか？ 本当の私はアートマンです。そしてヤージュニャヴァルキヤの結論は、本当は我々が愛したものの、その原因は魂です。旦那さんは奥さんの中に自分の魂を見ているから愛しています。奥さんは旦那さんの中に自分の魂を見ているから愛しています。両親は子どもの中に自分の魂を見ているから愛しています。

すから愛しています。なぜならその魂は自分の本性ですから。

#### 4月21日 ブラフマンの定義 不死とサチダーナンダ

ウパニシャドの勉強の目的で一番大事な段階は、ニッティヤ アニッティヤ ヴァストゥ ヴィヴェーカ（永遠か一時的か、事物を識別して下さい）です。聖典の中にその定義について出ています。

その定義は、ブラフマー エヴァ ニッティヤム ヴァストゥ タタハ アンニヤット アキラム アニッティヤム イーティヴィヴェーチャナム。

「ブラフマンだけが永遠で実在、それゆえ他のすべては一時的。この様に結論します」

（brahma:ブラフマン, eva : だけ, nityam : 永遠, vastu : 実在, tataḥ : それゆえ, anyat : 他の, akhilam : 全ては, anityam : 一時的, iti : この様に, vivechanam : 結論します）

ヴェーダーンタの聖典は沢山ありますが、シャンカラチャーリヤによるヴェーダーンタの定義についての節の半分で、ブラフマンとは何かを説明します。

ブランマ サッティヤム ジャガンミッティヤー ジーヴォー ブランマイヴァ ナーパラハ。

「ブラフマンは真理、この世は一時的。生き物はブラフマン（があらわれている）だけ。異なりません」

（brahma : ブラフマンは, satyam : 真理の, jagat : この世は, mithyā : 反対に詮無く, jīva : 生き物は, brahma eva : まさにブラフマンだけ, nāparah : 異なる）

意味が矛盾しているように思えますが、本来ブラフマンのみが実在で、宇宙や生き物は非実在です。しかし、宇宙も生き物もブラフマンと、言っています。

意味は、ジーヴァ（生き物）もブラフマンですが、一時的にあらわれたブラフマンという意味です。海にたとえますと、海は永遠ですが、波は一時的です。しかし波も海からできているのと同じで、宇宙もブラフマンから現れた一時的なブラフマンです。

マイトレーイーがヤージュニャヴァルキヤに尋ねました。

イエーナ アハム ナ アムリタ スヤーム, キム アハム テーナ クリヤーム。

「あるもので私に不死を与えてくれないなら、そのもので私は何をしますか？」 P174

死（ムリタ）とはどのようなレベルの死ですか？ また、不死（アムリタ）とは何でしょうか？

私たちは死にますが、死にたくない。不死になりたい。それがどのようにして出来るかを理解してください。私たちが肉体、心と同一すると、死という考えが出て恐れ、苦しみ、悲しみ、不安がでます。しかし、アートマンは永遠ですから、アートマンと同一すると私は、不死、永遠になるという事です。

すべての愛、愉しみ、知識の源は、サチダーナンダ（sat cit ānanda）です。一時的な愛や楽しみは、永遠の愛、愉しみの小さな反射ですが、私たちは、マーヤーの影響で、その一時的な小さな反射で満足しています。永遠の愛や愉しみについては、興味を持ちません。

しかし、賢い人は、小さな反射で満足しません。小さな反射がとても素晴らしいなら、実在はどんなに

素晴らしいかを知りたいと思います。

私たちは、self love（自己愛）によって、自分の旦那、奥さん、子供を愛していると思っています。しかし、self love（小文字のsは私の身体）について考えると、その源は、Self（アートマンの事）です。大文字のSです。本当の源は、内なる自己の愛（Love of the Self）の故に家族や親しい人を愛します。

サット（存在）・チット（知識）・アーナンダ（至福）を別の言葉で、「アスティ（存在している）、プハーティ（現れる）、プリヤ（とても心地良い、とても愛する）」と表現します。

アスティ（asti）が存在しています。プハーティ（bhāti）が現れる。知識があるとそれは現れています。プリヤ（priya）はとても愛したものです。愛するものがあると私たちは楽しんでいませんか？ それで、プリヤとアーナンダは一緒の意味です。

ですから、私の家族、子供、友人を愛する、自己愛の源は、サチダーナンダです。

ヴェーダーンタの勉強の次の準備は

イハ アムットラ プハラ ボーガ ヴィラーガ。

「この世と天国での、結果としての楽しみに無執着になる」。

（iha：この世で、 amutra：あの世で、 phala：結果、 bhoga：快樂、 viraga：無関心）。

この世で楽しみたいなら、沢山仕事をしてお金を稼ぐ必要があります。天国を楽しみたいなら、沢山の霊的实践や儀式をしなければいけません。その結果で、楽しむことができますが、その楽しみに対して無執着にならないとヴェーダーンタの勉強の準備はできません。

どうして放棄が必要でしょうか？ 私たちが探しているのは、反射の楽しみではなく、本当の愉しみです。アムリタ、サチダーナンダを本当に求めているのですから、反射の楽しみを求めるのは矛盾します。西と東は同時に行くことができません。永遠と一時的どちらかを放棄しなければいけません。

私たちは、いつも神様や真理を放棄して、一時的な楽しみを求めています。反対の放棄、一時的な楽しみを放棄するのがヴェーダーンタの勉強のために必要な準備です。